

様式第2号（第10条関係）

会議結果のお知らせ

- 1 開催した会議の名称 令和4年度第1回直川地域振興審議会
- 2 開催日時 令和4年6月21日（火） 午後7時～午後8時30分
- 3 開催場所 直川振興局 2階 大会議室
- 4 出席者
 - (1) 地域振興審議会委員
芦刈紀生、阿部元治、大友勝彦、下岡里美、竹島麗、竹中裕子、西田吉充、春山昌信、水久保雄二、柳井道則 10名中10名出席
 - (2) 佐伯市職員
政策企画課 政策企画係 総括主幹：田村英朝、副主幹：清田甲生、
コミュニティ創生課 住民自治推進係 副主幹：川野登志郎、副主幹：稲好直彦
直川振興局 地域振興課 局長：廣瀬功、課長補佐：村西栄二、
総括主幹：大畑郁、副主幹：小野雅史 8名出席
- 5 公開、非公開の別 公開
- 6 傍聴人数 0人
- 7 議題及び結果
 - (1) 開会
 - (2) 会長あいさつ
 - (3) 直川振興局長あいさつ
 - (4) 協議事項
 - ①第2次佐伯市総合計画（前期基本計画：地域活性化分野）の検証結果について（諮問事項）
 - ・第2次佐伯市総合計画（前期基本計画）施策評価調書（H30～R4 総合評価）について説明
施策評価調書について意見交換。審議の結果、妥当であるとのこと。
 - ②第2次佐伯市総合計画（後期基本計画：地域活性化分野）の策定について（諮問事項）
 - ・第2次佐伯市総合計画（後期基本計画）の考え方について説明
後期基本計画の考え方について理解していただいた。
 - ③令和4年度佐伯創生推進総合対策事業について
 - ・事業内容について説明
 - ④その他
 - ・新たな地域コミュニティの構築について（経過報告）説明
 - ・令和4年度直川地域公共事業等実施内容について説明
 - (5) 閉会

8 審議の内容

別紙参照

9 会議の資料名一覧

- ・令和4年度第1回直川地域振興審議会 資料
- ・第2次佐伯市総合計画 前期基本計画評価結果
- ・第2次佐伯市総合計画 前期基本計画施策評価調書
- ・第2次佐伯市総合計画 政策評価調書（H30～R4 総合評価）
- ・第2次佐伯市総合計画 後期基本計画の考え方
- ・直川地域の新たな地域コミュニティ組織の検討結果をお知らせします

10 問い合わせ先

担当課 佐伯市直川振興局 地域振興課 地域振興・市民サービス係
電話番号 0972-58-2111

別紙

8 審議の内容

【出された意見等】

芦刈委員：

○高齢者がコミュニティバスのデマンドで予約したが、デマンドタクシーが佐伯市内から来るので、予約時間を忘れてしまい、デマンドタクシーが帰ったことがあった。

（回答）デマンドタクシーの利用の仕方や利用増について検討をしていく。後期基本計画にも盛り込んで取組んでいく。

○鉾泉センターが長期休業のないように整備をしっかりとやってもらいたい。

○グリーンツーリズムについては、コロナ禍で最近はお客が来なかったが、徐々にこれからお客が増えてくると思う。しかし、お客農家も減っているため、お客受け入れ先の増加が必要だと思っている。

○この前、老人クラブで昭和 50 年頃の映像を観て会員が喜んでいて、出来れば過去の映像がビデオテープなので DVD に編集をして、老人クラブや市民が視聴できるようにしてもらいたい。

阿部委員：

○稲作の新品種である「なつほのか」を作付けしている農家はいるのか。

（回答）中津留の農家が少し植付けている。

大友委員：

○直川米を東京の取引先に出荷している。直川米の味は良いと評価されているので、今後は付加価値をつけて売れば、米を作る農家の後継者が増えると思うので、行政と話し合いながら行っていきたい。

○ジビエ商品は、コロナの影響もあるが需要はある。落ち着けば、まだ需要があると思うので、今後も力を入れていきたい。ジビエ商品が売れば、若い猟師の確保や環境保全にも繋がると思う。

下岡委員：

○いっちみろうやふれあいの集いに引き続き支援をお願いします。

竹島委員：

○日帰りの利用者は少ない。宿泊利用者は例年並みに戻ってきている。夏場の予約は多くなっている。

○鉾泉センターが長期休業をしていたので、キャンプ場利用者で入りたい方もいたので、今後は休止があまりないように整備をお願いしたい。

○憩いの森キャンプ場は古いイメージがある。新たにPRしたい客層があるので、サブネームをつけたいと思っている。

(回答) 宇目キャンプ場もサブネームをつけているので、ぜひサブネームをつけて下さい。

○受付の整備をしたいと思っているので支援をお願いしたい。

竹中委員：

○農地中間管理機構を活用して農地保全に努めてもらいたい。

○私は農事組合法人なおみのメンバーで、組合でオーガニックの取組みとして、有機栽培米を昨年は0.3ha 作付けを行い、今年は1.35ha 作付けする。出来た米は学校給食に提供した。有機栽培の取組みはハードルの低いところから進めていくほうがやりやすいと思う。

西田委員：

○コミュニティバスのデマンドタクシーの利用状況はどうか。便利だという意見も聞くが。

(回答) 利用者が少ないが、今後利用者が増えるように、後期基本計画に盛り込み取組んでいく。

春山委員：

○今年度は直川方面隊団員が91名となった。今年度から報酬が個人口座に振り込まれるようになった。11月には体験公園亀の甲で訓練を行い、来年3月には幹部が消防学校に入校する予定。今年度、消防団応援隊から機能別団員に移行する隊員がいるか話し合いを行う。基本団員の1割の範囲内で考えている。

水久保委員：

○直川地域の方は防災意識が高いのか、火災が少なく、消防団応援隊の出動機会が少ないので、活動意識が低くなっている。なので、防災以外の取り組みとして高齢者の見守りを行うことも検討していきたい。

柳井委員：

○消防団応援隊の火災現場で解散のタイミングがわからないので、今後検討していく必要があると思う。

○佐伯市はコロナに対して厳しいように感じる。息子がアメリカから帰ってきたが、アメリカではほとんどフリーな状況になってきている。